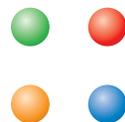




株主のみなさまへ  
花王株式会社 中間事業報告書  
2005.4.1—2005.9.30



# 商品の高付加価値化による“利益ある成長”をめざ

## 連結中間決算の概況

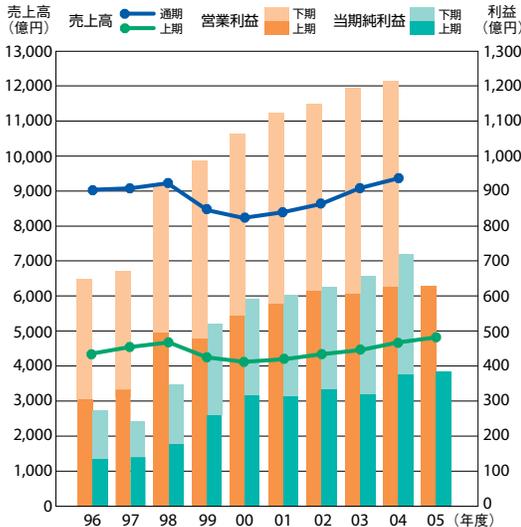
当中間期の売上高は、4,830億円（前年同期比103.0%）となりました。国内事業の売り上げは前年同期比1.6%の伸びとなりました。家庭用製品事業においては、高付加価値新製品の発売及び積極的なマーケティング活動による育成によって売り上げを拡大し、また工業用製品事業においても、新規開発製品の伸長により堅調に推移しました。一方、海外事業の売り上げは前年同期比8.0%の伸びとなりました。事業運営の

革新を図っているアジアの家庭用製品においては横ばいでしたが、欧米の家庭用製品と工業用製品は順調に推移しました。

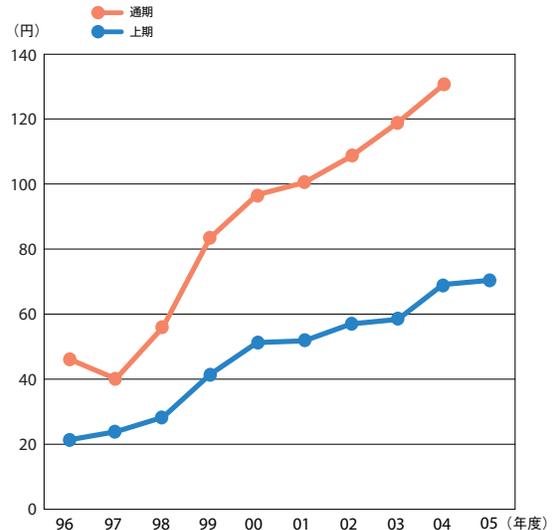
営業利益は、630億円（前年同期比101.0%）となりました。販売価格の下落や原料価格の上昇の影響を受けて売上原価率が上昇し、また、新製品や既存品の育成や販売強化のための費用も増加しましたが、売り上げの増加などにより、増益となりました。

経常利益は、636億円（前年同期比98.5%）

## ◆ 連結売上高・利益の推移



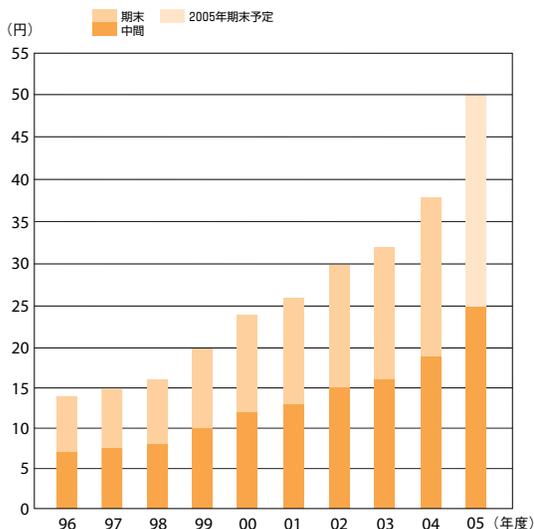
## ◆ 連結1株当たり純利益の推移



となりました。営業外損益は、前年同期の21億円の収益(純額)から、5億円の収益(純額)に減少しました。これは、主として持分法による投資損益が、前年同期の投資利益から投資損失に転じたことによるものです。

中間純利益は、384億円(前年同期比101.9%)となりました。税効果会計適用後の法人税等の負担率が、子会社の赤字額の減少や海外子会社の税率差などにより、前年同期の40.0%から37.4%に低下しました。

## ◆ 1株当たり配当金の推移



平成17年11月

花王株式会社

代表取締役  
社長執行役員

尾崎元規

当期の中間配当金は、当初の予定通り、前年同期より6円増配の1株当たり25円とさせていただきます。

## 今後の経営施策

当社は、厳しい事業環境の中、今年度当初より「商品の高付加価値化による“利益ある成長”の達成」を花王グループ全体の目標として掲げ、以下の3点の重点施策を力強く実行しております。

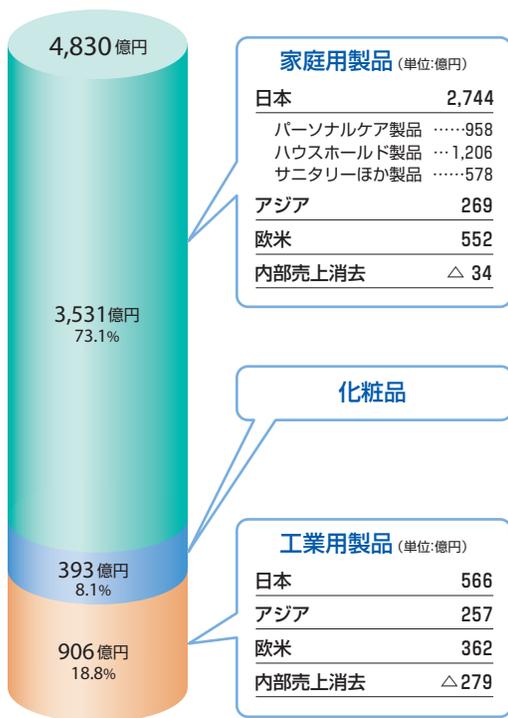
### (1) 国内家庭用製品事業及び化粧品事業の強化とシェアの拡大

家庭用製品の市場においては、販売価格の下落や原料価格の上昇により、厳しい事業環

境が続いております。こうした中、当社は、市場シェアの拡大を図るべく、基幹ブランドの一層の強化と新製品の発売・育成及びさらなるコストダウン活動に努めております。

また、プレステージ化粧品分野における「ソフィ

#### ◆ 中間連結売上高構成比



(注) 1. 記載金額は、億円未満を切り捨てて表示しております。  
2. グラフの売上高は、外部顧客に対する売上高を表示しております。

ーナ」ブランドの販売価格帯の市場は、依然、縮小傾向が続いておりますが、当社は、消費者の美容意識、購買行動及び流通チャネルの変化に対応した商品力の強化に努めております。さらに今年7月には高級化粧品ブランドの英国モルトン・ブラウン社を買収し、化粧品事業のグローバル展開の加速を図るとともに、国内化粧品事業と連携し、シナジー効果の発揮をめざしております。



▲ 世界70カ国以上で事業展開している英国モルトン・ブラウン社の商品

#### (2) 海外家庭用製品事業の成長の加速

欧米においては、米国の花王ブランド社が、「プレミアムビューティケア」に焦点を絞った事業展開で着実な成長を続けております。スキンケア製品では「ジャーゲンズ」ブランドの「ナチュラル

グロー」、またヘアケア製品では「ジョン・フリーダ」ブランドの「ラディアント レッド」を発売し、米国及び欧州の消費者の高いご支持を得て、売り上げの増加にも大きく貢献しております。

アジアにおいては、消費者及び市場の変化に加えて、競合各社との競争も激化しておりますが、当社は、「アジア一体運営」の旗印の下、日本の本社機能と現地各社が一体となった事業運営の革新を図り、成長市場と見込んでいるこの地域において一層の発展をめざしてまいります。

### (3)工業用製品事業のグローバル展開の充実

国内においては、トナー・トナーバインダーやインクジェットプリンターインク用色材などのスペ



▲順調に売り上げが増加しているインクジェットプリンターインク用色材

シャルティケミカルズが、特長ある製品によって、顧客の高いご支持を得て、順調に成長を続けております。

また、海外においては、マレーシア及びフィリピンに生産拠点を持つ油脂アルコール、米国で生産能力増強を図ったトナー・トナーバインダー及びドイツのコンクリート用高性能減水剤を中心に好調に推移しております。

最後になりますが、当社は以上のような積極的な事業展開を図るとともに、企業の社会的責任(コーポレート・ソーシャル・レスポンシビリティ: CSR)を一層強く認識した企業活動を続けてまいります。

昨年7月には全社横断的な組織であるCSR委員会を設置し、すでに継続的な活動を行っておりますが、今年9月にはディスクロージャー、コンプライアンス及びリスクマネジメントの3つの視点に立って内部統制委員会を新たに設け、より高いレベルの「経営の質の向上」をめざしてまいります。

株主の皆さまにおかれましては、こうした当社の姿勢に何卒ご理解を賜り、今後とも一層のご支援をいただきますようお願い申し上げます。

# 財務報告の要約

(記載金額は、億円未満を切り捨てて表示しております。)

## ◆ 中間連結貸借対照表

(単位:億円)

資産の部	当中間期	前期	負債、少数株主持分 及び資本の部	当中間期	前期
	平成17年9月30日現在	平成17年3月31日現在		平成17年9月30日現在	平成17年3月31日現在
流動資産	3,047	2,891	流動負債	2,216	2,115
現金及び預金	541	320	支払手形及び買掛金	761	709
受取手形及び売掛金	1,059	1,035	未払金	200	191
有価証券	243	403	未払費用	673	632
たな卸資産	891	817	未払法人税等	200	196
その他	311	314	その他	380	385
固定資産	4,214	3,996	固定負債	178	217
有形固定資産	2,618	2,602	長期借入金	7	14
建物及び構築物	899	899	その他	171	203
機械装置及び運搬具	808	801	負債合計	2,395	2,333
土地	620	625	少数株主持分	75	74
その他	289	276	資本金	854	854
無形固定資産	1,125	862	資本剰余金	1,095	1,095
営業権	572	260	利益剰余金	3,278	2,993
商標権	407	443	その他有価証券評価差額金	48	35
その他	146	158	為替換算調整勘定	360	397
投資その他の資産	470	532	自己株式	123	98
繰延資産	1	1	資本合計	4,792	4,482
資産合計	7,263	6,889	負債、少数株主持分及び資本合計	7,263	6,889

(注)有形固定資産の減価償却累計額

当中間期 7,725億円 前期 7,615億円

● 株主資本比率 当中間期 66.0% 前期 65.1%

### ポイント

総資産は、前期末に比べ373億円増加しました。流動資産では、現金及び預金が増加し、また新製品の前造りなどにより、たな卸資産が増加しました。有形固定資産は、設備投資により増加し、無形固定資産は、モルトン・ブラウン社の買収に伴う営業権の計上などにより増加しました。一方で、有価証券及び投資有価証券が、上記の買収や設備投資などの資金に充てられ減少しました。

### ポイント

負債は、企業年金基金への拠出により退職給付引当金が減少しましたが、買掛金や未払費用などが増加したことなどにより、前期末に比べ62億円増加しました。株主資本は、配当金の支払いや自己株式の市場買付による減少がありましたが、中間純利益が順調であったこと及び転換社債の株式への転換などにより前期末より310億円増加しました。

## ◆ 中間連結損益計算書

(単位:億円)

科 目	当中間期	前年中間期
	平成17年4月1日から 平成17年9月30日まで	平成16年4月1日から 平成16年9月30日まで
売 上 高	4,830	4,690
売 上 原 価	2,107	1,988
販売費及び一般管理費	2,093	2,077
営 業 利 益	630	624
営 業 外 損 益	5	21
経 常 利 益	636	646
特 別 損 益	11	10
税金等調整前中間純利益	624	636
法人税、住民税及び事業税等	233	254
少数株主利益(減算)	6	4
中 間 純 利 益	384	377

(注)1株当たり中間純利益 当中間期 70円75銭  
前年中間期 68円51銭

- 連結子会社は87社、持分法を適用した子会社・関連会社は21社です。
- 前年中間期に対する伸長率  
 売上高 3.0%(海外売上高の換算為替差を除くと2.9%)  
 営業利益 1.0%  
 経常利益 1.5%  
 中間純利益 1.9%
- 海外売上高の連結売上高に占める割合は、27.5%で、前年中間期に比べて1.1ポイント増加しました。

### ポイント

売上高は、前年中間期に比べ140億円増加しました。営業利益は、販売価格の下落や原料価格の上昇などで売上原価率は上昇しましたが、売上高の増加が寄与し、6億円増加しました。経常利益は、持分法による投資損益が利益から損失に転じたことなどにより9億円減少しました。中間純利益は、法人税等の負担率が下がったことから7億円の増加となりました。

## ◆ 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:億円)

科 目	当中間期	前年中間期
	平成17年4月1日から 平成17年9月30日まで	平成16年4月1日から 平成16年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	646	591
税金等調整前中間純利益	624	636
減 価 償 却 費	276	272
売上債権の増減額(増加:△)	6	43
たな卸資産の増減額(増加:△)	52	74
仕入債務の増減額(減少:△)	40	57
退職給付引当金の増減額(減少:△)	65	62
法人税等の支払額	206	199
そ の 他	36	5
投資活動によるキャッシュ・フロー	451	310
有形固定資産の取得による支出	222	266
新規連結子会社買収に伴う支出	316	—
そ の 他	87	43
財務活動によるキャッシュ・フロー	154	484
借入金の増減額(減少:△)	7	22
自己株式の取得による支出	55	410
配当金の支払額	109	100
そ の 他	2	4
現金及び現金同等物に係る換算差額	10	8
現金及び現金同等物の増減額(減少:△)	51	212
現金及び現金同等物の期首残高	704	1,071
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加高	7	—
連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額	8	—
現金及び現金同等物の中間期末残高	755	859

### ポイント

営業活動により得られたキャッシュ・フローは、順調に推移しました。投資活動では、設備投資のほか、モルトン・ブラウン社の買収に伴う支出がありました。財務活動では、配当金の支払いや自己株式の市場買付(前期取得枠の未行使分)を行いました。その結果、現金及び現金同等物の中間期末残高は、前期末に比べ51億円増加しました。

# 新製品のご紹介

## リセッシュ®

緑茶のチカラでスッキリ消臭!

天然の緑茶から取り出した消臭成分を配合した新しい衣類・布製品用消臭スプレーの「リセッシュ」が誕生しました。衣類や布製品についた生活の中の気になるニオイに対して、緑茶のチカラがしっかりとらいて、高い消臭効果を発揮します。除菌成分も配合されているので、菌の繁殖もしっかり抑えます。小さなお子様やペットのいるご家庭でも安心してお使いいただけます。



## めぐりズム® 蒸気温熱パワー〈一般医療機器〉

蒸気が出る温熱シート誕生

「めぐりズム 蒸気温熱パワー」は、気持ちよい蒸気が出る新開発のシート状の発熱体を採用した温熱シートで、患部を温める一般医療機器です。快適温度約40℃が5～8時間続きます。専用ベルトに入れて使う「腰腹用ワイドシート」と、直接肌に貼って使う「肌に貼るシート」の2タイプがあります。

【効能効果】温熱効果 1.血行をよくする 2.筋肉のこりをほくす 3.筋肉の疲れをとる 4.胃腸の働きを活発にする 5.神経痛、筋肉痛の痛みの緩解 6.疲労回復



### ●ホームページのご案内

下記の当社ホームページでは、決算や新製品のお知らせなど、さまざまな情報を提供しております。ぜひご覧下さい。

<http://www.kao.co.jp>

### ●株式に関するお問い合わせ先(名義書換代理人)

〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
中央三井信託銀行株式会社 証券代行事務センター  
TEL (03) 3323-7111 (代)

### ●お手続き用紙のご請求について

住所変更、名義書換請求、単元未満株式買取・買増請求及び配当金振込指定等に必要の各用紙のご請求は、名義書換代理人の下記のフリーダイヤル及びホームページにて24時間受け付けております。

☎0120-87-2031 (自動応答)

[http://www.chuomitsui.co.jp/person/p\\_06.html](http://www.chuomitsui.co.jp/person/p_06.html)

(注) 証券保管振替制度をご利用の場合は、お取引のある証券会社にお申し出下さい。

清潔で美しくすこやかな毎日をめざして

## 花王株式会社

この印刷物は、再生紙を使用しております。